



地域の特徴

早田町（早田地区）は、三重県南部の尾鷲市の一地区で、尾鷲湾と賀田湾の間に位置する早田浦の湾奥にある。早田町は黒潮の流れる豊かな海を背景に、大型定置網や小型定置網、イセエビ刺し網漁などの漁業が営まれる漁業の町である。



活動の背景及び方針

1999年、三重大学の研究調査により、早田浦で磯焼けが確認された。また、磯焼けした海域では、ガンガゼ類が多く生息していることが判った。磯焼けは一時的なものではなく、その後も進行した。そこで、その対策として、2009年度に地元漁業者、町民、三重大学ダイビングサークル等から構成される活動組織を結成し、藻場の維持・回復を図る活動を開始した。

活動の方針は、主にガンガゼ類の除去活動や藻場のモニタリングを継続的にを行い、ガンガゼ類の密度を低く保つことで、藻場の回復を図り、海域環境の再生を目指すことにしている。

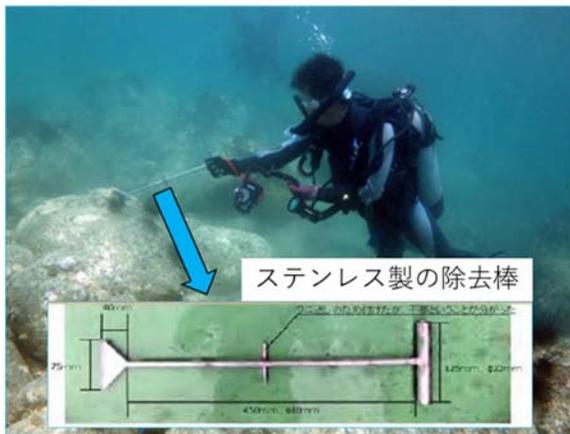
活動実績

(1) ガンガゼ類の除去

早田浦では、組織設立当初からガンガゼ類の除去が行われている。ガンガゼ類の除去は3区域で行われ、平成22年から24年までは年3~4回の活動を実施した。その後、平成25年以降は海藻被度が回復してきたことから、除去活動を年2回に減らし取り組みを継続している。

除去の方法は、漁業者による船上からの除去に加え、三重大学の学生

や漁業者等がダイビングによって行っている。ダイビングによる活動では、ガンガゼ類除去のために作成した専用のステンレス製の除去棒を使用してガンガゼ類を1つ1つ潰して除去している。



(2) 藻場のモニタリング

藻場のモニタリングはライトランセクト法で行う。除去区域に設定した調査ライン上に5m間隔で1m²のコドラート枠を設置し、枠内の海藻種、被度及びガンガゼ類と他のウニ類の個体数を計測している。

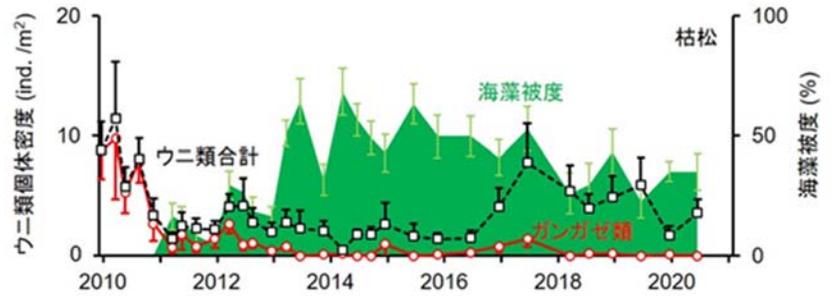
活動の成果と課題

除去活動の開始から、ガンガゼ類の密度は低下し、それとともに海藻類の被度が増加した。

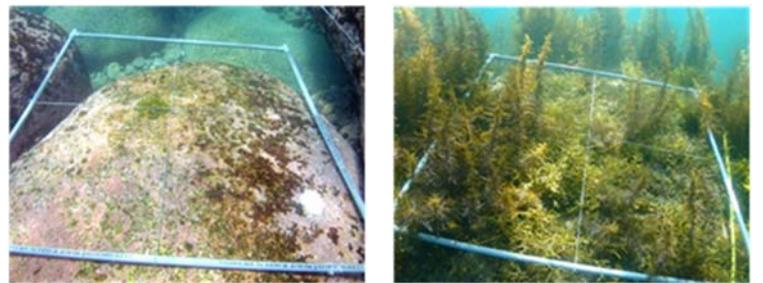


調査開始時の

平成21年ではガンガゼ類密度は1m²当たり9個体であり、海藻の生育が認められない典型的な磯焼け状態であった。しかし、活動5年目の平成25年以降、ガンガゼ類の密度が1m²当たり1個体未満となり、海藻の被度が増加し、藻場の回復傾向が認められるようになった。



活動区域は、ガンガゼ類の除去により藻場が広く回復する傾向がみられた。海藻の被度は季節的な変動はあるものの、ガンガゼ類の除去活動後は安定している。また、調査開始時に藻場が確認されていなかった活動区域外の湾奥部でも、ホンダワラ類の着生と増加が認められた。



活動に参加する漁業者は「岩肌が真っ白になっていたのに、海藻が茂ってきた」、「徐々に環境の再生を実感しており、今後も地道に活動を続けていきたい」など感想を寄せている。この活動により、漁業者の間で、海域環境やその保全への関心が高まっていると感じられる。

今後の方針

除去対象であるガンガゼ類は減少している。一方で、ムラサキウニやナガウニ等のウニ類が増加しており、今後はこれらのウニ類の除去を実施する予定である。加えて、これからの地球環境を考慮すると、温暖化等の海洋環境の変化による藻場の変動に合わせ、必要な対策を実施していく必要があると考えている。そのため、除去活動およびモニタリングを長期的に継続し、環境の変化に合わせたより柔軟な考え方や活動を実施していくことが望まれる。